

令和3年度学校経営計画

令和3年度～令和5年度（1年目）

校番	112	学校名	呉特別支援学校	校長氏名	木村 剛毅	全	江能分級
----	-----	-----	---------	------	-------	---	------

1 教育目標

地域社会で人と繋がりながら、自分の目標に向けて主体的に課題解決に取り組む児童生徒を育成します。

2 育てたい児童生徒像

	小学部	中学部	高等部
〈知〉 確かな学力	興味・関心をもって学ぶ児童	意欲的に学ぶ生徒	生活に必要な基礎学力を身に付けた生徒
〈徳〉 豊かな心	楽しく人と関わる児童	ルールやマナーを身に付けた生徒	自ら考え判断し行動できる生徒
〈体〉 健やかな体	元気に遊ぶ児童	体力向上に向けて意欲的に運動する生徒	健康・安全に生活するための知識と体力を身に付けた生徒
〈ことばの教育〉 言語活動	あいさつができる児童	自分の気持ちを表現することができる生徒	自分の気持ちや考えを伝えることができる生徒

3 中期（3年間）経営目標 ※教育活動その他の学校運営に関する目標

- (1) 確かな学力、豊かな心、健やかな体のバランスの取れた児童生徒の育成
- (2) 障害特性に応じた指導力の向上
- (3) 地域社会への貢献

4 短期（本年度）経営目標及び行動計画等 ※中期（3年間）経営目標を達成するための本年度の経営目標及び行動計画等

中期（3年間）経営目標

- (1) 確かな学力、豊かな心、健やかな体のバランスの取れた児童生徒の育成

短期（本年度）経営目標	本年度行動計画	評価指標	現状値 (前年度)	目標値
(知) 興味・関心をもって学び、身に付けた力を活用・表現する力の向上を図る。	次の3点を踏まえた個別の指導計画を作成するとともに、特性や学習進度等を、9月、2月に評価し、個別最適な学びを推進する。 ・基礎的・基本的な知識・技能等の確実な習得 ・興味・関心を広げ自ら学び思考し表現する力の育成 ・個々の実態に応じた構造化を図った指導・支援	個別の指導計画で設定した授業ごとの目標を8割以上達成した児童生徒の割合	新規	80%
(徳) 児童生徒が「楽しく関わる」「ルールやマナーを守る」「自ら判断し行動する」力の向上を図る。	・児童生徒が「ルールやマナーを守り、自ら判断し行動する」場として児童生徒会スポーツ大会を実施し、事後に教職員及び児童生徒を対象としたアンケートを実施する。 ・全校集会において、ICTを活用した報告を実施する。	教職員及び児童生徒によるアンケートの肯定的評価の割合	新規	60%
(体) 健康・安全に生活するための知識と体力の向上を図る。	4月、9月、2月に、新体力テストの項目（シャトルラン、ボール投げ）を体育や体力づくりで行い、結果を生かして工夫した指導を行う。	両項目の能力が向上した児童生徒の割合	新規	80%

中期（3年間）経営目標 （2）障害特性に応じた指導力の向上				
短期（本年度）経営目標	本年度行動計画	評価指標	現状値 (前年度)	目標値
主体的な活動を目指した授業づくり（児童生徒が自ら気づき、考えて行動できる授業づくり）を推進する。	児童生徒の主体的な姿を引き出す「3つの構造化」について上期に研修を行い、下期に「授業づくりシート」及び「江能分級版指導法の構造化授業評価シート」を活用した授業を行う。	本校独自の授業シートを活用した研究授業による評価4段階の3以上の割合	77%	85%
障害特性を踏まえた授業に係る情報発信を行い、個別最適な学びを推進する。	「学校だより『かきしま』」を年間5回発行し、特性を踏まえた指導の記事を掲載する。	巡回相談を行った学校の教職員に対してアンケートを行い、評価が4段階の内3以上だった割合	新規	70%

中期（3年間）経営目標 （3）地域社会への貢献				
短期（本年度）経営目標	本年度行動計画	評価指標	現状値 (前年度)	目標値
清掃活動によって地域の役に立つ教育活動を実施する。	地域行政と連携して、地域のニーズを把握し、上期で5回、下期で5回清掃活動を実施する。	活動の実施回数	6回	10回
地域のニーズを把握し、販売・収穫等の活動によって地域の役に立つ取組を行い発信する。	地域と連携して、地域のニーズを把握し、上期において、新規開拓の取組を3回行う。年間においては、活動を計6回実施する。	活動の実施回数	新規	6回

働き方改革に関する短期（本年度）目標

短期（本年度）経営目標	本年度行動計画	評価指標	現状値	目標値
児童生徒と向き合う時間の確保を図るとともに、業務の効率化を図り、ワーク・ライフ・バランスを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 自己申告書に、業務改善、働き方改革に係る目標を設定する。定時退校日の周知徹底を図り、会議設定、各種適切な設定を行わないようにする。 30分で会議を実施する。（事前の資料配付、事前メモ書きによる課題整理） スクラップ&ビルドボードを活用し、業務の精選を図る。 	1ヶ月 45 時間以上の時間外勤務を行う者の年間延べ人数	新規	15人以内

別紙：現状分析

(1) 児童生徒数の推移

(人)

年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31(令和元)年度	令和 2 年度	令和 3 年度
小学部	2	3	2	2	4	7
中学部	7	5	7	4	5	3
高等部	10	13	12	10	9	11
計	19	21	21	16	18	21

(2) SWOT分析

		外部環境																					
		機会(+)	脅威(-)																				
内部環境	強み(+) <ul style="list-style-type: none"> ● 江田島の特産であるオリーブ栽培を中心にした教育活動を行っている。 ● 広島県特別支援学校技能検定に挑戦している。 ● 絵画やポスターのコンクールに積極的に応募している。 ● 学んだ知識・技能を発揮して、校内の環境整備をしている。 ● 授業づくりの方法の研究が進み、「構造化」が進み、スクールスタンダードができつつある。 ● 環境整備を行い、ICTを積極的に活用できている。 ● 人の役に立つ活動（ゴミ捨てボランティア、エコバック袋の配付）をする学部が多い。 ● 小学部・中学部・高等部の学部を越えた児童生徒同士の関りが多く、他者や作品などに興味を向ける児童生徒が多い。 ● 月1回の参観日の時には、保護者会が開催され、教頭と保護者の連携がとりやすい。 	<p>【育てたい児童生徒像】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>小学部</th> <th>中学部</th> <th>高等部</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>〈知〉 確かな学力</td> <td>興味・関心をもって学ぶ児童</td> <td>意欲的に学ぶ生徒</td> <td>生活に必要な基礎学力を身に付けた生徒</td> </tr> <tr> <td>〈徳〉 豊かな心</td> <td>楽しく人と関わる児童</td> <td>ルールやマナーを身に付けた生徒</td> <td>自ら考え判断し行動できる生徒</td> </tr> <tr> <td>〈体〉 健やかな体</td> <td>元気に遊ぶ児童</td> <td>体力向上に向けて意欲的に運動する生徒</td> <td>健康・安全に生活するための知識と体力を身に付けた生徒</td> </tr> <tr> <td>〈ことばの教育〉 言語活動</td> <td>あいさつができる児童</td> <td>自分の気持ちを表現することができる生徒</td> <td>自分の気持ちや考えを伝えることができる生徒</td> </tr> </tbody> </table>		小学部	中学部	高等部	〈知〉 確かな学力	興味・関心をもって学ぶ児童	意欲的に学ぶ生徒	生活に必要な基礎学力を身に付けた生徒	〈徳〉 豊かな心	楽しく人と関わる児童	ルールやマナーを身に付けた生徒	自ら考え判断し行動できる生徒	〈体〉 健やかな体	元気に遊ぶ児童	体力向上に向けて意欲的に運動する生徒	健康・安全に生活するための知識と体力を身に付けた生徒	〈ことばの教育〉 言語活動	あいさつができる児童	自分の気持ちを表現することができる生徒	自分の気持ちや考えを伝えることができる生徒	<p>外部環境</p> <p>機会(+)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 江田島市オリーブ振興室や江田島市地域おこし協力隊と連携して、オリーブ栽培を進めている。 ● 江田島市役所と連携して、市内全家庭に配付される広報誌に掲載され、教育活動を周知し、認知度が向上している。 ● 江田島市役所と連携して、地域の防災緑地の清掃活動をしている。 ● 江田島市教育委員会から学校給食の提供を受けている。 ● 江田島市教育委員会の栄養教諭による食に関する指導を受けている。 ● 能美市民センターで清掃活動を実施している。 ● 江田島市主催のヒロシマMIKANマラソンの運営に参画している。 ● 外部人材（理学療法士、作業療法士、ダンス、太鼓、ようこそ先輩、マナー等）を活用して指導の充実を図っている。 ● 税務署や江田島市が主催する「まちづくり講座」を活用して指導の充実を図っている。 ● 地域の小学校と学校間交流をしている。 <p>脅威(-)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 江田島市の課題として、少子高齢化が進んでいる。 ● 社会に開かれた教育課程を実施する場としての公共施設が少ない。 ● 地域で教育活動をするための交通手段が本数の限られた路線バスのみである。 ● 就学区域である呉市首戸町・倉橋町と学校をつなぐ早瀬大橋を通る公共交通機関がない。 ● 海に隣接しており、津波災害警戒区域である。 ● 江能分級の認知度が低い。
		小学部	中学部	高等部																			
〈知〉 確かな学力	興味・関心をもって学ぶ児童	意欲的に学ぶ生徒	生活に必要な基礎学力を身に付けた生徒																				
〈徳〉 豊かな心	楽しく人と関わる児童	ルールやマナーを身に付けた生徒	自ら考え判断し行動できる生徒																				
〈体〉 健やかな体	元気に遊ぶ児童	体力向上に向けて意欲的に運動する生徒	健康・安全に生活するための知識と体力を身に付けた生徒																				
〈ことばの教育〉 言語活動	あいさつができる児童	自分の気持ちを表現することができる生徒	自分の気持ちや考えを伝えることができる生徒																				
弱み(-) <ul style="list-style-type: none"> ● 学部間、分掌間等での指導内容の継続性、一貫性が不十分である。 ● 教職員の教科バランスに偏りがある。 ● 児童生徒数が少ないため、多様な人と関わる機会が少ない。 ● 外部との交流機会が少ないため、経験を積む機会が少ない。 ● 小・中学部の進路に係る取組が少ない。 ● 児童生徒は、表現する力をもっているも、表出まで至らなかつたり、困った時に助けを求められなかつたりすることがある。 	<p>I オリーブ栽培と江田島市の魅力を取り入れたカリキュラムの実施</p> <p>II 地域貢献となる教育活動の実施</p> <p>III ICTを活用した授業づくり</p>	<p>I 江田島市の活性化に繋がる教育内容の創造</p> <p>II 地元行政と連携した津波対策等防災・安全教育の充実</p>																					
		<p>I 地域貢献となる教育活動の実施</p> <p>II 地域資源を活用した教育活動の充実</p> <p>III 身近な人たちの仕事調べなどのキャリア発達を促す教育内容の充実</p>	<p>I 学校の情報発信</p>																				

令和3年度学校経営計画 評価基準

(1) 確かな学力, 豊かな心, 健やかな体のバランスの取れた児童生徒の育成				
短期(本年度)経営目標	評価指標	中間評価時	年度末評価時	評価
(知) 興味・関心をもって学び, 身に付けた力を活用・表現する力の向上を図る。	個別の指導計画で設定した授業ごとの目標を8割以上達成した児童生徒の割合	個別の指導計画(前期)で設定した授業ごとの目標を8割以上達成した児童生徒の割合が80%以上	個別の指導計画(後期)で設定した授業ごとの目標を8割以上達成した児童生徒の割合が80%以上	A
		70%以上 80%未満	70%以上 80%未満	B
		60%以上 70%未満	60%以上 70%未満	C
		50%以上 60%未満	50%以上 60%未満	D
(徳) 児童生徒が「楽しく関わる」「ルールやマナーを守る」「自ら判断し行動する」力の向上を図る。	教職員及び児童生徒によるアンケートの肯定的評価の割合	満足度4段階の内3以上の割合が全体の60%以上(前期)	満足度4段階の内3以上の割合が全体の60%以上(通年)	A
		50%以上 60%未満	50%以上 60%未満	B
		40%以上 50%未満	40%以上 50%未満	C
		40%未満	40%未満	D
(体) 健康・安全に生活するための知識と体力の向上を図る。	両項目の能力が向上した児童生徒の割合	両項目の能力の向上が見られた児童生徒の割合が全体の80%以上(前期)	両項目の能力の向上が見られた児童生徒の割合が全体の80%以上(通年)	A
		70%以上 80%未満	70%以上80%未満	B
		50%以上70%未満	50%以上70%未満	C
		50%未満	50%未満	D
(2) 障害特性に応じた指導力の向上				
主体的な活動を目指した授業づくり(児童生徒が自ら気づき, 考えて行動できる授業づくり)を推進する。	本校独自の授業シートを活用した研究授業による評価4段階の3以上の割合	研究に係る研修の校内アンケート評価4段階で3以上が全体の80%以上	研究授業の評価4段階で3以上が全体の85%以上	A
		70%以上 80%	75%以上 85%未満	B
		60%以上 70%	65%以上 75%未満	C
		60%未満	65%未満	D
障害特性を踏まえた授業に係る情報発信を行い, 個別最適な学びを推進する。	巡回相談を行った学校の教職員に対してアンケートを行い, 評価が4段階の内3以上だった割合	達成した割合が70%以上	達成した割合が70%以上	A
		達成した割合が65%以上70%未満	達成した割合が65%以上70%未満	B
		達成した割合が60%以上65%未満	達成した割合が60%以上65%未満	C
		達成した割合が60%未満	達成した割合が60%未満	D
(3) 地域社会への貢献				
清掃活動によって地域の役に立つ教育活動を実施する。	活動の実施回数	上期で5回実施	下期で5回実施	A
		上期で4回実施	下期で4回実施	B
		上期で3回実施	下期で3回実施	C
		上期で2回実施	下期で2回実施	D
地域のニーズを把握し, 販売・収穫等の活動によって地域の役に立つ取組を行い発信する。	活動の実施回数	地域と連携した新規開拓の取組を3回実施	地域ニーズを参考にした販売・収穫等の活動を6回実施・発信	A
		地域と連携した新規開拓の取組を2回実施	活動を4回実施・発信	B
		新規開拓の取組を3回実施	3回実施・発信	C
		新規開拓の取組を2回実施	活動を2回実施・発信	D
働き方改革に関する短期(本年度)目標				
児童生徒と向き合う時間の確保を図るとともに, 業務の効率化を図り, ワーク・ライフ・バランスを推進する。	1ヶ月45時間以上の時間外勤務を行う者の年間延べ人数	30分会議を70%の割合で実施	1ヶ月45時間以上の時間外勤務は, 延べ15人以内	A
		30分会議を50%の割合で実施	1ヶ月45時間以上の時間外勤務は, 延べ17人以内	B
		30分会議を30%の割合で実施	1ヶ月45時間以上の時間外勤務は, 延べ19人以内	C
		30分会議を10%の割合で実施	1ヶ月45時間以上の時間外勤務は, 延べ21人以内	D